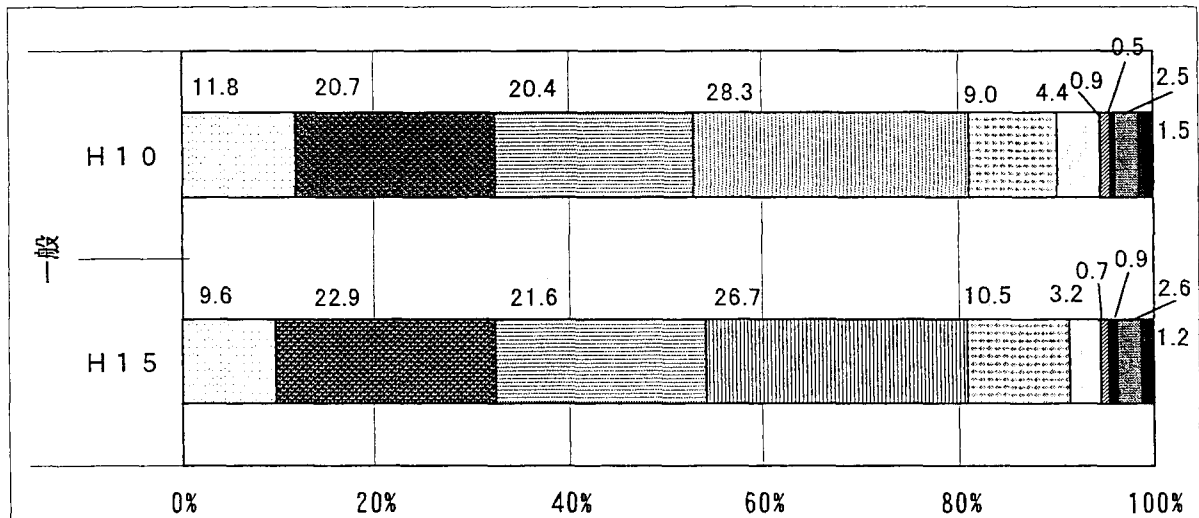


### <(8) 終末期における療養の場所>

自分が痛みを伴う末期状態（死期が6ヶ月程度より短い期間）の患者となった場合に、一般国民が希望する療養の場所については、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が最も多く（般27%）、次に「なるべく早く緩和ケア病棟に入院したい」（般23%）、「自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい」（般22%）、「自宅で最期まで療養したい」（般11%）の順となっている。

問 あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている（6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定）場合、療養生活は最期までどこで送りたいですか。（○は1つ）

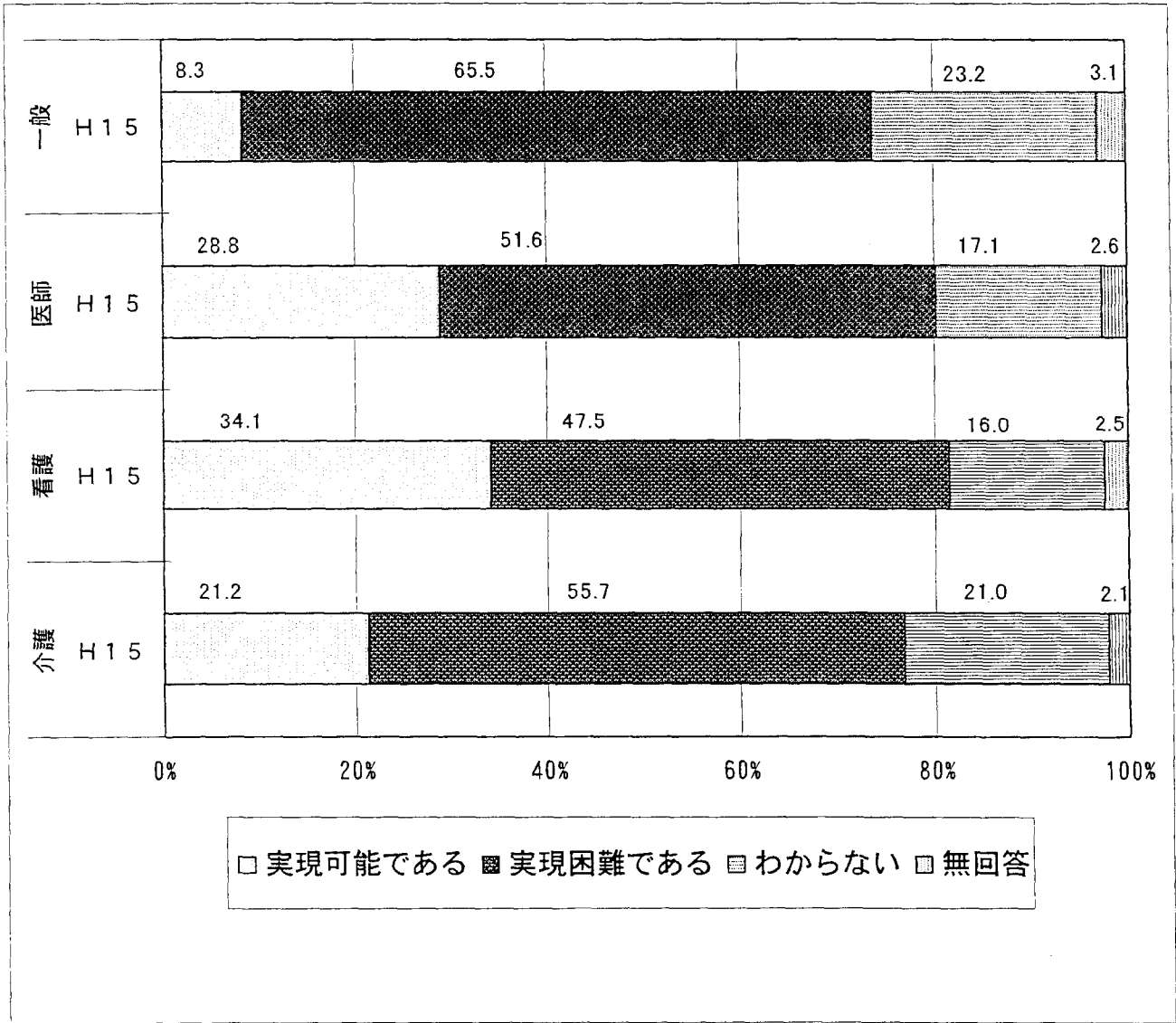
問の番号 一般4-1



- なるべく早く今まで通った（又は現在入院中の）医療機関に入院したい
- なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい
- 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 自宅で最後まで療養したい
- 専門的医療機関（がんセンターなど）で積極的に治療を受けたい
- 老人ホームに入所したい
- その他
- わからない
- 無回答

自宅で最期まで療養することについて、多くの者が「実現困難である」と回答しており（般 66%, 医 52%, 看 48%, 介 56%）、「実現可能」と回答した者は比較的少ない（般 8%, 医 29%, 看 34%, 介 21%）。

問 自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。（○は1つ）  
 問の番号 一般4-1, 2 医師8-1, 2 看護8-1, 2 介護8-1, 2



自宅で最期まで療養するのは「実現困難である」と回答した具体的な理由としては、「介護してくれる家族に負担がかかる」（般 78%,医 69%,看 77%,介 74%）が最も多く、次いで「病状が急変したときが不安である」（般 57%,医 54%,看 53%,介 65%）が多い。

（「自宅で最期まで療養することは実現困難である」と回答した者に対する質問）

問 実現できないとお考えになる具体的な理由はどんなことでしょうか。お考えに近いものをお選びください。（○はいくつでも）

問の番号 一般 4-2 補問 医師 8-2 補問 看護 8-2 補問 介護 8-2 補問

